

矢継ぎ早に新規事業

中計目標200億円達成へ

北陸産地の合繊織布最大手、丸井織物（石川県中能登町）では各種新規事業案件が進展している。収益にすぐ寄与する

ものではないが、「いずれは全てがリンクしていくき、シナジーが發揮できるはず」（宮本徹社長）として、今後も中長期的な

視点で各事業を推進していく。昨年スター

出荷というクイック対応が強み。Tシャツだけでなくバック類やトレーナー類、エプロンなどへのプリントも可能で、Tシャツが主体ということで

夏場が繁忙期だが、冬に突入する現在も予想に反してそれほど注文量は落ちていない。旺盛な受注を背景にプリンターも順次増設して現在は8台体制。近いうちに12台に拡大する構想も持つ。投資費用をどうみるかによるが、既に黒字化も果たしている。

昨年8月には「テキスタイルモール」も立ち上げた。副資材や生地を製造、販売する20社が名を連ねるポータルサイトで、立ち上げからしばらくは「やや停滞していた」ものの、今年10月には専任担当も置き、事業拡充への体制を整えた。顧客や参加企業からの「ニーズを聞きながら」改良などを施し事業拡大を図る。

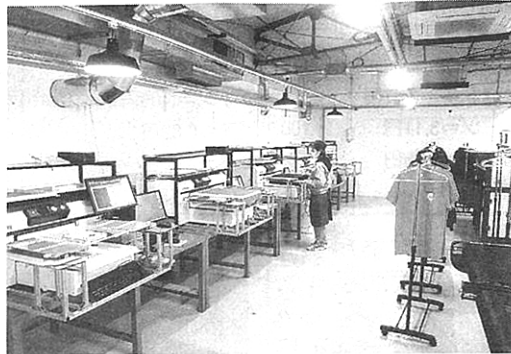
同社は現状の約140億円という売上高を、2020年度に200億円に引き上げることが目指す中期経営計画「革新200」を進めている。自主販売やIT事業の拡大によってこの目標を達成

10月以降急速に冷え込み

丸井織物の宮本徹社長によると、2016年12月期は売上高、利益ともに「前期並みを確保できるか微妙なところ」と言う。

前半戦こそ堅調な推移を見せたが、10月以降急速に（市況が）悪くなっ

「プレミラム・テキスタイル・ジャパン」展への継続出展などを背景に徐々に規模を拡大しているが、そのペースは中計目標からすればやや遅いという。



順調に進展するプリント事業

①個人向けの自販②団体向けの自販③委託加工

「プレミラム・テキスタイル・ジャパン」展への継続出展などを背景に徐々に規模を拡大しているが、そのペースは中計目標からすればやや遅いという。

「プレミラム・テキスタイル・ジャパン」展への継続出展などを背景に徐々に規模を拡大しているが、そのペースは中計目標からすればやや遅いという。

「プレミラム・テキスタイル・ジャパン」展への継続出展などを背景に徐々に規模を拡大しているが、そのペースは中計目標からすればやや遅いという。

「プレミラム・テキスタイル・ジャパン」展への継続出展などを背景に徐々に規模を拡大しているが、そのペースは中計目標からすればやや遅いという。